

令和5年度 西岳中学校 学校評価書

	目標	自己評価	現状分析	次年度への対策	学校関係者評価	
					評価	コメント
最重点事項 (担当分掌部)	自分で考え、行動できる生徒の育成	B	概ねできているが、保護者の自己評価に比べ、生徒の評価は低い傾向にある。	生徒の判断に委ねる場面では、脇役に徹することに努め、生徒の自主性を尊重していく場面を増やしていく。	B	良く指導されていて、生徒も真面目である。自分の性格にあった役割を考え、行動できている。
ア 確かな学力の育成 (教務学習部)	○ わかる授業をめざしての指導方法の工夫改善	B	生徒は、授業では概ね理解している傾向にある。課題の提出については、保護者や職員よりも生徒の自己評価が低い傾向にある。 家庭学習への取組については、生徒の認識よりも保護者の認識の方が低い傾向に見られる。 家庭学習の内容については、半数以上の生徒と保護者は充実していると判断している傾向にある。 読書冊数0冊の生徒が2名程見られるが、毎週水曜日(図書館サポーター在中)、全校生徒に1冊以上の本の貸出しを生徒会活動として取り組んでいる。また、1年生と2年生は、西岳タイムで読書の時間を設定している。	授業においては、教えるべきことをしっかりと定着させた上で、「わさび」(脇役に徹する・先をよむ・生徒の微細な反応に気づく)の授業展開を引き続き行う必要がある。 生徒会活動などの自治的活動を通して、提出物の向上や家庭学習の充実に向けた具体的な取り組みを行う必要がある。 引き続き、生徒会活動「リーディングタイム」を活用し、読書の場の設定を行っていく。 学習コンテスト等を行い、意欲的に学習に取り組む機会を設けていく。	B	良く指導されていて、生徒も真面目である。マンツーマンに近い形で出来ていることが素晴らしい。授業中に生徒の笑顔が見られたことなどから、先生方が生徒たちに楽しい授業を提供している点がすごく良い。小規模校の良さが出ていると思う。授業にも活気があるように感じた。少人数の学校の良さを生かした授業・指導が行われている。
	○ 望ましい学習態度・学習習慣の確立					
	○ 家庭教育の充実					
	○ 読書習慣の推進					
イ 心の教育の充実 (生指保体部)	○ 道徳の時間の充実	B	道徳の時間は概ね充実できている。規範意識についても概ね確立されている。リーダー育成も生徒会活動などを通して概ね育成されている。思いやりやコミュニケーション能力も概ね良好である。	引き続き、自分の考えを深めることができる道徳科の指導を行う必要がある。 引き続き、規範意識について生徒が主体的に判断できる機会を与える必要がある。 引き続き、一人一役などを通して全員に責任や、やり甲斐を持たせる必要がある。	B	3年間の経験は、すごく充実しているように思われた。1～2年生の向上が楽しみです。良く指導されていて、生徒も真面目である。マンツーマンに近い形で出来ていることが素晴らしい。生徒の生活態度を含め、日頃から元気にあいさつをする姿勢がとても良い。大規模校との交流があってもよいと思う。限られた時間で難しいかもしれませんが、もっとコミュニケーションの向上・道徳に力を入れられたらいいと思う。
	○ 規範意識の確立、リーダーの育成					
	○ 体験学習の充実					
	○ 思いやりの心を持った生徒の育成					
	○ コミュニケーション能力の向上					
	○ 積極的な生徒理解の推進					
ウ 保健・安全指導の充実 (生指保体部)	○ 心身の健康の充実	B	計画的な生活(学習や就寝、自由時間の切り替えなど)についての達成度は、生徒7割程度に比べ、保護者は5割程度と低いようである。 生徒は概ね毎日朝食を摂取するが、中には数名、毎日摂取してこない生徒もいる。 概ね食事の大切さについては理解している。 全校生徒18名のうち、部活動等に所属しているのは8名(ソフトテニス部6名、校外サッカークラブ2名)である。また、生徒会主催で昼休みには全校生徒で体を動かす場面では、全員の生徒が参加している。	引き続き、計画的な生活の確立について家庭との連携を行う必要がある。 引き続き、給食指導や家庭科の指導などを通して、食事の大切さについて主体的に考えさせる必要がある。 引き続き、学校生活や学習と部活動等との両立や、自己の体力の向上などについて、家庭との連携も行いながら指導していく必要がある。	B	マンツーマンだけに高校に進学したときに、他校の多くの生徒との付き合い方や自分の心の保ち方について、よく解らないと思う。理屈と実際は違うので、挫折している生徒が多い様に感じる。部活動等に所属している生徒が少なくなったのは残念である。昼休みに全員で体を動かすことは、すごく良いと思う。
	○ 体力づくりの充実					
	○ 安全指導・防災教育の徹底					
エ 家庭・地域との連携 (教務学習部)	○ 地域人材・素材の積極的な活用	B	わたげふれあいグラウンドゴルフ大会、職業講話、陶芸教室、少林寺拳法(体育授業)、調理実習での地域人材の活用が見られた。 地域の神社での祭り、地域の保育園での伝統芸能の披露、地域の文化祭への参加など、全員の生徒で参加し、地域に行事に貢献することができた。 学校便りや学級通信、ホームページによる情報発信により、家庭・地域との連携を図ってきた。しかし、ホームページには、目を通していない保護者もいる。	引き続き、地域と連携したふるさと教育の推進を模索していく必要がある。 生徒の実態を考慮しながら、地域人材・素材の有効活用を通して、キャリア教育を進めていく必要がある。 ホームページにも目を通してもらう手立てが必要である。 他校の情報発信の方法を参考に、今後も積極的な情報発信を模索する必要がある。	B	千足神社まつりや、わかば保育園の行事に参加するなど、大変素晴らしいことだと思う。良く連携されていると思う。地域行事および地域住民と生徒が授業を通して、何かをするという事に関して、すごく良いことであり、西岳という環境を生かした教育ができています。コロナによる行動制限がなくなり、以前のように活動できるようになり良かった。地域を知り、理解することは大事だと思う。これからも行事に参加してもらいたい。
	○ 地域等行事への積極的な参加					
	○ 学校からの積極的な情報発信					
	○ 地域と連携しながらのふるさと教育の推進					